

〈桜茶〉

ネイチャーゲームの仲間から桜茶をいただいた。手作りだそうだ。透明の瓶には赤い汁に浸かった桃色の桜が見えた。見るからにおいしそう。蓋を開けると塩漬けにされた桜が手招きしている。早速畑でお湯を沸かしていただくことにした。桜茶を飲むのは慶事の時くらいで、はてさて直近ではいつ飲んだらうか?、と思いつけないくらい前のことだ。一花つまんでカップに入れお湯を注ぐと見る見る花卉が開いて、桜が咲いた。白っぽいカップだったので、せっかくの花が溶け込んでしまったが、薄いピンクの花卉がカップのお風呂に気持ち良さそうに広がっている。一口飲んでみる。かすかなしょっぱさと共に桜のほのかな香りが鼻孔をくすぐる。コーヒー党で日に何杯も飲むが、コーヒーにはない優しさが体中に染み込み、ゆったりした気分になれる。今日のようなポカポカ陽気の日にはぴったりの飲み物だ。

菜の花とポッカーリ浮かんだ白い雲、モンシロチョウのダンスにヒバリのさえずり、こんなロケーションで飲む桜茶、まさに慶事そのものだ。

